

教育・研究業績書

所属名 国際教育研究施設 国際交流センター 国際環境衛生室		
<教員の紹介> 教 授 大 平 修 二 准 教 授 岸 久 司		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月	概 要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
当室の学生教育は、衛生学を中心に以下に示した講義・実習を担当している。 1. 社会医学系・衛生学の講義および同・実習を担当（医学部・第4学年）	2004年5月～現在	講義では、主に生活環境、労働環境と生体影響との関係あるいは、予防医学に関連する法規、制度について、わかり易く理解させるため要点を配布資料として作成し、シラバスと関連させることにより個々で独自の参考ノートができるようにしている。また、講義の後半では積極的に視聴覚教材を用いてそのまとめをおこない、メリハリのあつ講義としている。 実習では、講義と関連した項目について、独自の 実習プリントに基づき環境測定、産業衛生検査、水質検査など実際行われている測定法について 少人数グループ分けした学生個人が、できるだけ すべての実験を行えるように工夫している。将来 研究者となることも考慮し、実験器具の基本的な 使い方等、基礎的な教育にも重点をおき、報告書 の提出もすべて個人が提出することとし、試験前 に関連後学生にフィードバックしている。
2. 症例演習の衛生学分野を担当（医学部・第4学年）	2004年5月～現在	労働衛生や環境衛生で比較的多く認められる疾患の症例について、近年の国試の傾向を考慮しながら、配布プリントと視聴覚資料を用いて質疑応答形式で学生が集中できるように解説している。

3. 公衆衛生・衛生の衛生学分野を担当 (医学部・第6学年)	2004年5月～現在	最近の国試問題を提示しながら、産業衛生、環境衛生、食品衛生に関与した基本的事項について、配布プリントと視聴覚資料を用いて学生と質疑応答形式の講義を行っている。実際の出題された問題だけでなく、それに類似した問題を解けるよう応用力を養えるように工夫している。
4. PBL 教育のチューター (医学部・第1および2学年)	2004年5月～現在	学生自ら能動的に問題を解決できるようチューターとして、その方法についてアドバイスしている (文献検索や図書などの利用法を含む)。
5. 医学英語グループ学習を担当 (医学部・第2学年)	2008年5月～現在	与えられた医学文献に馴染んでもらうことを重点に置き、専門用語を解説しながらわかり易くグループディスカッション形式で行っている。
6. 国際関係論の環境衛生・公衆衛生分野を担当 (看護学部・第2学年)	2008年5月～現在	環境衛生や、公衆衛生に関連した、国際協定等を理解することを目的に、配布プリントと視聴覚資料を用いて学生自ら説明させたり、質問に解答させたりし、全員参加型の講義を行っている。
その他 (上記すべてにおいて)		学生からの個人的な質疑に関しては常に対応している。また、学生総会やFD委員会などで学生や他の教員からの要望のあった講義方法に対する意見や医学教育法等の文献を参考にして、改善すべきことは改善しながら、より良い講義を目指している。 学生生活全般の指導としては、昨年より学年担任として日常生活での相談等を実行している。また、研究室は全学生に対して常に開放的にしており、私どもの研究に興味を持った学生の基礎配属や個人的な研究の支援を受け入れている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
講義用資料の作成	2004年5月～現在	①で述べているように、講義のポイントを資料として作成し、毎回学生に配布している。講義シラバスとともに、直接講義内容や板書から得た学生個人の注釈をそれらに加えることにより、あとで個人が学習するためによりよい参考資料ができるはずである。

教育・研究業績書

所属名	職名	氏名	
国際教育研究施設 国際交流センター国際環境衛生室	教授	大平 修二	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1978年4月～現在	日本衛生学会員		
1986年4月～現在	獨協医学会員		
1988年4月～現在	日本産業衛生学会員		
1998年4月～現在	日本環境化学会員		
2001年4月～現在	日本衛生学会評議員		
2004年4月～現在	獨協医学会評議員		
2005年4月～現在	獨協医学会運営委員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. <u>Ohhira S</u> , Watanabe M, Matsui H: Identification of principal cytochrome P-450 in triphenyltin metabolism in rats. Toxicol. Lett 148: 141-148, 2004.			
2. <u>Ohhira S</u> , Enomoto M, Matsui H: Sex difference in the principal cytochrome P-450 for tributyltin metabolism in rats. Toxicol. Appl. Pharmacol 210: 32-38, 2006.			
3. <u>Ohhira S</u> , Enomoto M, Matsui H: In vitro metabolism of tributyltin and triphenyltin by human cytochrome P-450 isoforms. Toxicology 228: 171-177, 2006.			
和文			
1. 渡辺啓太、柳瀬香織、 <u>大平修二</u> ：ラットにおける5種トリアルキル錫（トリメチル、トリエチル、トリプロピル、トリブチル、トリオクチル錫）経口投与24時間後のトリアルキル錫およびその代謝産物の臓器中濃度の比較検討。日本衛生学雑誌 62: 58-63, 2007.			
2. 榎本光紀、塚越昇、岸久司、 <u>大平修二</u> ：有機溶剤使用職場におけるリアルタイム有機溶剤個人暴露測定と経時的有機溶剤尿中代謝物排泄量との関連評価。産業医学ジャーナル 31: 73-77, 2008.			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

所属名 国際教育研究施設 国際交流センター国際環境衛生室	職名 准教授	氏名 岸 久司	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1991年8月～現在 2001年3月～現在 2006年9月～現在	日本繁殖生物学会員 日本畜産学会員 日本衛生学会員		
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>欧文</p> <ol style="list-style-type: none"> Ishigame H, Medan MS, Watanabe G, Shi Z, <u>Kishi H</u>, Arai KY, Taya K: A new alternative method for superovulation using passive immunization against inhibin in adult rats. Biol Reprod 71: 236-243, 2004. Takedomi T, <u>Kishi H</u>, Medan MS, Aoyagi Y, Konishi M, Itoh T, Yazawa S, Watanabe G, Taya K: Active immunization against inhibin improves superovulatory response to exogenous FSH in cattle. J Reprod Dev 51: 341-346, 2005. Arai KY, <u>Kishi H</u>, Onodera S, Jin W, Watanabe G, Suzuki AK, Takahashi S, Kamada T, Nishiyama T, Taya K. Cyclic changes in messenger RNAs encoding inhibin/activin subunits in the ovary of the golden hamster (<i>Mesocricetus auratus</i>). J Endocrinol 185: 561-575, 2005. Mikawa S, <u>Kishi H</u>, Ogawa H, Iga K, Uenishi H, Yasue H: Analysis of recessive lethality on swine chromosome 6 in a Gottingen miniature resource family. Anim Genet 36: 376-380, 2005. Okano A, <u>Kishi H</u>, Takahashi H, Takahashi M: Tumor necrosis factor-α induces apoptosis in cultured porcine luteal cells. J Reprod Dev 52: 301-306, 2006. <u>Kishi H</u>, Nemoto M, Enomoto M, Shinoda M, Kawanobe T, Matsui H: Acute toxic effects of dioctyltin on immune system of rats. Environ Toxicol Pharmacol 22: 240-247, 2006. Kon H, <u>Kishi H</u>, Arai KY, Shinoda M, Watanabe G, Taya K: The effects of prolactin and gonadotropin on luteal function and morphology in the cyclic golden hamster. J Reprod Dev 54: 418-423, 2008. <p>和文</p> <ol style="list-style-type: none"> 榎本光紀, 塚越昇, 岸久司, 大平修二: 有機溶剤使用職場におけるリアルタイム有機溶剤個人暴露測定と経時的有機溶剤尿中代謝物排泄量との関連評価. 産業医学ジャーナル 31: 73-77, 2008. <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>【そ の 他】</p>			